

ばとけんカード 総合マニュアル



柴崎銀河

概要

このカードセットは、手の型で勝負判定をする遊び「じゃんけん」に様々な手の型を追加して『ぼとけん』と呼ぶゲームにしたものです。推奨人数は2人から8人です。

基本的な遊び方

カードは7種類あります。最初にどのカードを何枚使うかを決めておきます。合計で（プレイヤー人数+1）の倍数にするのが良いでしょう。カードを伏せた状態で混ぜてから等しい枚数のカードを配り、同じ枚数の残りを山にします。ここから1回戦が始まります。山の上から1枚をめくって表向きにします。「ぼとけん、ぼん！」の合図とともに、手札から同時に1枚のカードを出して見せ合います。このとき、山からめくった1枚も勝負に参加しています。勝った人は目の前のテーブルにそのカードを表向きのまま縦に置き、負けた人は横に置き、並べていきます。これは後で数えるためです。以上を手札が無くなるまで繰り返し、ゲームの勝者は、最終的にいちばん多く勝った人になります。山が勝ったときは次点のプレイヤーが勝者です。勝者が複数いるときは、勝った手型の数字の合計が小さいほうが真の勝者です。

勝敗判定（衝突とすくみ）

『ばとけん』では、同じ手型を出した人がいたら負けになります。これを「衝突」と言います。その回の勝負は、残りの手型で判定します。全員が「衝突」したときは全員の負けになります。従来のじゃんけんは、石(グー)・鋏(チョキ)・紙(パー)の3種です。石は鋏を折って勝ち、鋏は紙を切って勝ち、紙は石を包んで勝ちます。この3つが同時に出た場合は優劣が付かず、通常は引き分けになります。これを「すくみ」と呼びます。しかし『ばとけん』では、鋏が「すくみ」を断つと考えて、鋏の勝ちにします。

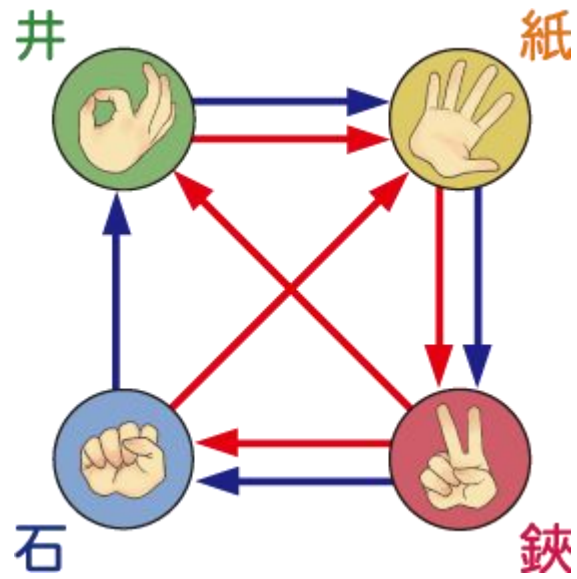
ケルトの井戸じゃんけん

ケルト文化圏では井戸が神聖視されたため、現在のフランスとドイツの一部地域では、井(イド)を加えた4種の手型によるじゃんけんが知られています。井は、鋏と石を落として勝ちますが、紙には塞がれて負けます。（→四元相関図・井戸じゃんけん）。

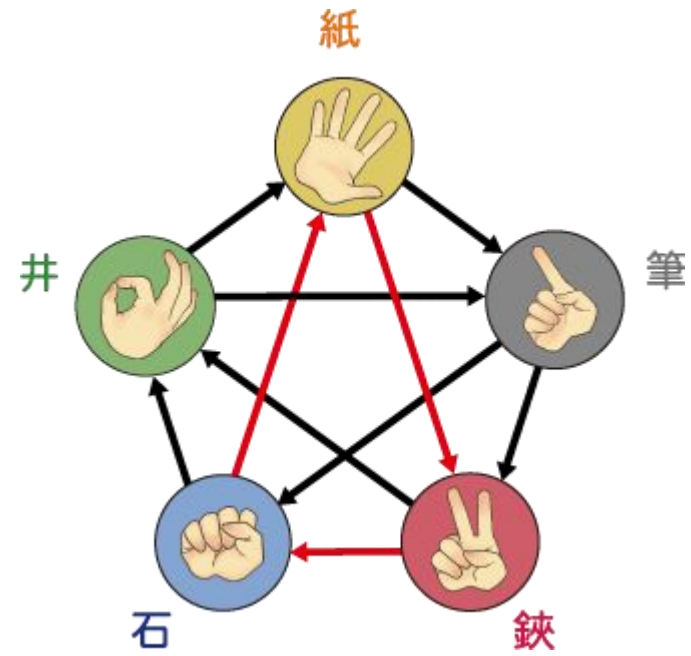
筆じゃんけん

井戸じゃんけんに筆(フデ)を加えて5種にしたものを筆じゃんけんと呼びます。筆は、井に墨を入れて勝ち、紙に落書きをして勝ちますが、鋏と石には負けます。（→五元相関図・筆じゃんけん）

四元相関図・井戸じゃんけん



五元相関図・筆じゃんけん



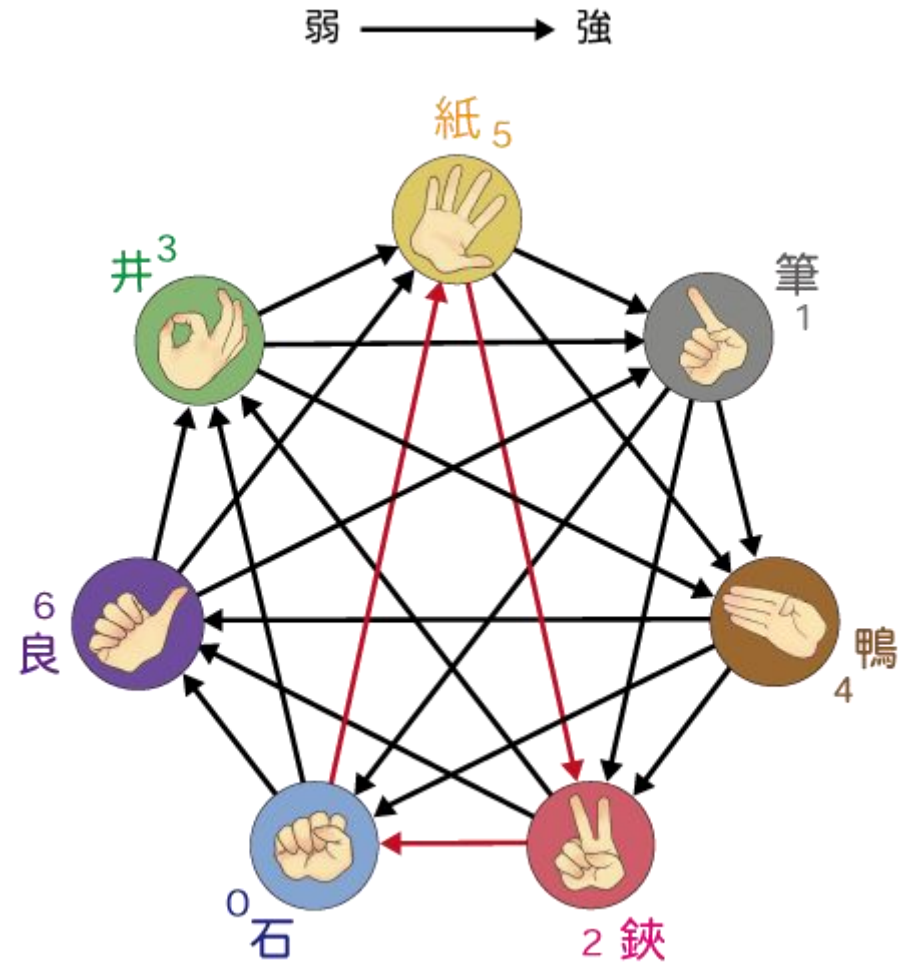
ばとけん

筆じゃんけん、鴨(カモ)と良(イイネ)を加えて7種の手型にしたものを『ばとけん』と呼びます。鴨は、井から逃げ出して勝ち、筆と紙を突いて勝ちますが、鋏と石には負けます。各手型は、数字を表しています。これは豊洲市場の競りで使われる指数字とほぼ同じです。石(グー)=0、筆(フデ)=1、鋏(チョキ)=2、井(イド)=3、鴨(カモ)=4、紙(パー)=5、良(イイネ)=6、です。ここで6の良は、他の偶数に勝ちますが、奇数に負けます。(→七元相関図・ばとけん)。鋏が絡まない「すくみ」が生じたときは、数が大きい手型を勝ちとします。

勝敗まとめ 次の順序で判定します

- (0) 山から1枚めぐり全員で「ばとけん、ぽん！」
- (1) 同じ手型で「衝突」したら負けて脱落
- (2) 相関図の判定でオール「弱」なら脱落
- (3) 「すくみ」に鋏(チョキ)が居たら鋏の勝ち
- (4) それ以外なら大きい数の勝ち

七元相関図・ばとけん



じゃんけんカード『ばとけん』説明書 Ver 1.0

2018年12月7日 初版発行

著者 柴崎銀河

イラスト 双星たかはる

発行所 銀河企画

参考文献

- [1] 柴崎銀河："チョキ勝ちじゃんけん", 米光一成の表現道場 (2017/5/20)、同 Blog "ちょきじゃんけん" (2017/6/23)。
- [2] 柴崎銀河："井戸じゃんけんカード", 銀河企画 (2018/1/29)。

『ばとけん』には、これ以外にも多くの遊び方とオプションルールが用意されています。ルール紹介サイト GPI.JP/BK で提供しておりますので、ご覧いただければと思います。